

検討経緯

第1回 熊谷市道路空間検討会

- 検討会の設立
- 検討の流れ
- 現況の課題整理
- 整備の基本的考え方

平成 20 年 10 月 22 日

アンケート

平成 20 年 10 月～11 月

ワークショップ

平成 20 年 11 月 29 日



第2回 熊谷市道路空間検討会

- 調査結果等の報告
- 整備の考え方及び整備イメージ（案）

平成 21 年 1 月 21 日



第3回 熊谷市道路空間検討会

- 整備イメージの決定
- 整備方針（案）の策定

平成 21 年 3 月 3 日



熊谷市道路空間検討会

委員長 埼玉大学大学院 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 教授 久保田 尚

委員 筑波自治会連合会 会長
熊谷市なおね商店会 会長
熊谷市交通安全母の会 会長
熊谷市身体障害者福祉会 会長
熊谷市ろう者協会 会長
熊谷市視覚障害者福祉協会 会長
熊谷うちわ祭 平成 20 年大総代

埼玉県警察本部交通部交通規制課 課長補佐
埼玉県警察熊谷警察署 交通課長
埼玉県県土整備部道路環境課 主幹
埼玉県北部地域振興センター 担当部長
埼玉県熊谷県土整備事務所 道路環境部長
熊谷市 都市整備部長
熊谷市 建設部長
大宮国道事務所 事務所長

（事務局） 国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所
住 所 さいたま市北区吉野町 1-435 TEL 048-669-1209 FAX 048-669-1227
ホームページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/>

熊谷市道路空間整備方針

（案）

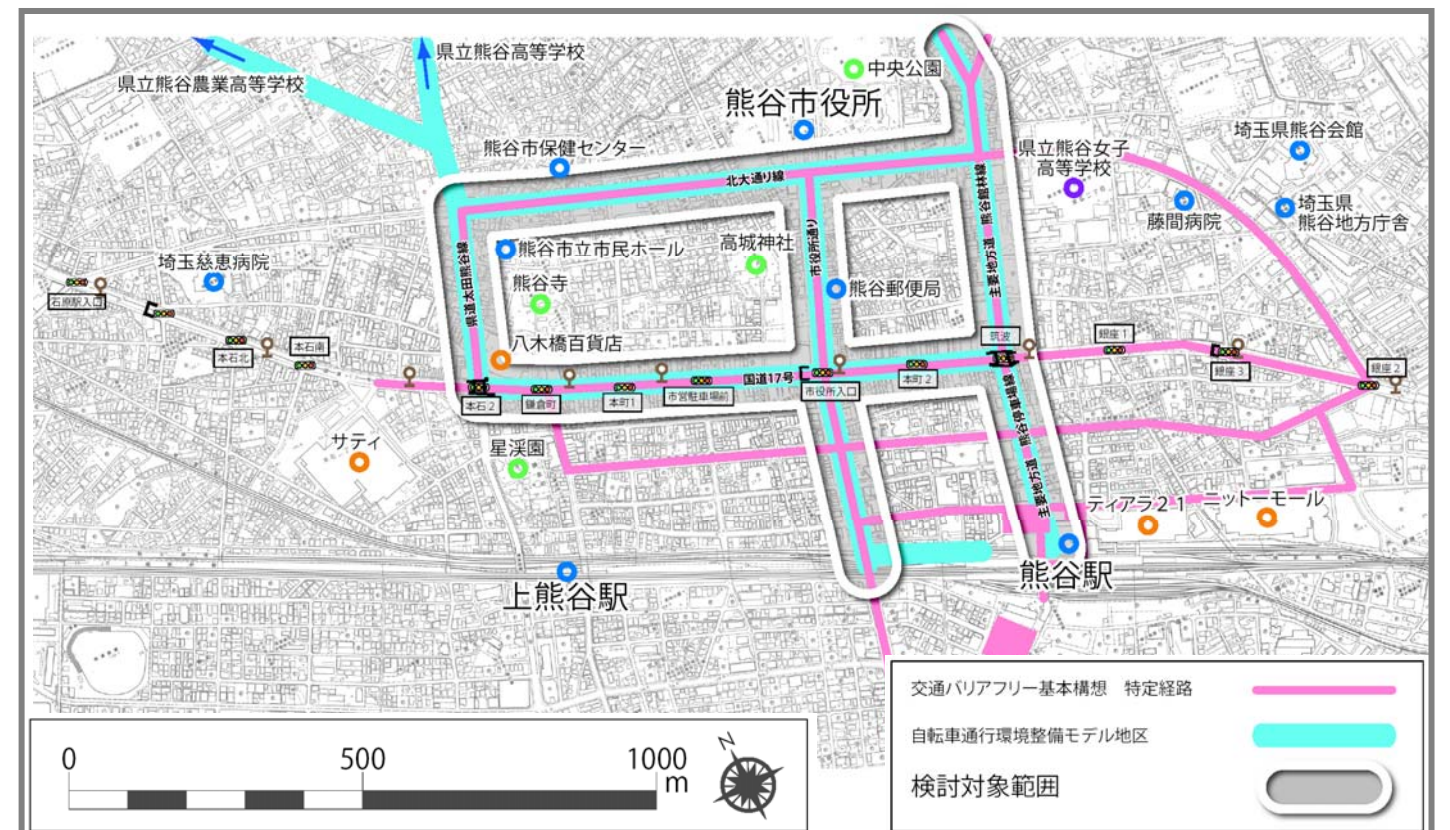
〔概要版〕

熊谷市道路空間検討会 2009 年 3 月

当該地域は、平成 14 年 4 月に熊谷市交通バリアフリー基本構想が策定され、熊谷駅を中心とする国道 17 号を含む街路網を特定経路に指定し、バリアフリー対策を順次実施してきたところです。

その後、平成 19 年 10 月に熊谷市が景観行政団体となり、平成 20 年 1 月には、自転車通行環境整備モデル地区に指定され、道路空間に対して歩道における歩行者と自転車利用者の安全な走行空間及び景観への配慮が求められるようになってきています。

また、国道 17 号においては毎年祭が催されていることから、これらの祭事と共存した整備もあわせて図っていくほか、熊谷市において策定された総合振興計画、都市計画マスタープラン、環境基本計画等を考慮しつつ、バリアフリー整備・自転車走行環境整備・景観整備の三位一体となった整備計画を検討するため、国・県警・県・市・地元が一体となって、課題の抽出及び共有化を図り、整備方針・整備イメージについて定めたものです。



基本的な考え方

□整備課題□

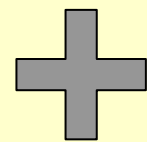
バリアフリーと自転車利用が調和した道路空間形成

安全な歩行空間の確保
(錯綜等の解消)

確実なバリアフリー化の実施

自転車利用の安全性向上

自転車利用マナーの啓発・利用者ルール徹底



上記事業実施に際して以下の配慮が必要

既存施設の有効活用

うちわ祭、えびす祭との共存

中山道の歴史の活用

景観に配慮した整備

夏期における暑さ対策

景観・環境等の維持管理

□整備コンセプト□

ひとと環境に
やさしい道づくり

□基本方針□

歩行者と自転車の通行が区分された安全な道路空間を創出します。

ユニバーサルデザインの理念に基づく歩行空間整備を目指します。

中山道の歴史を活かし、うちわ祭、えびす祭の祭事利用や、周辺景観に配慮した整備を進

連続した緑陰の創出、環境配慮素材の採用等、快適な歩行環境創出を目指します。

自転車利用マナーやルールの周知を図り、ハード整備と一体となった取組を進めます。

地域と連携し、景観や環境の保全形成に努めます。

意見反映の概要

■アンケート調査

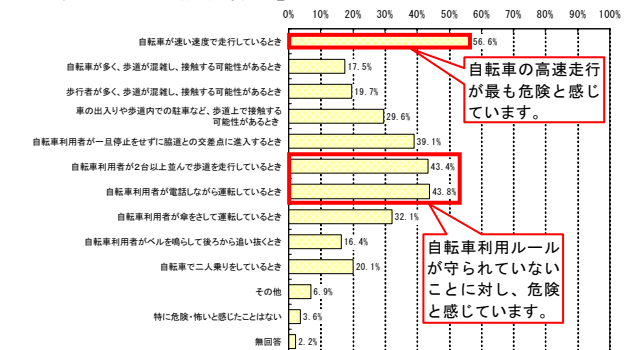
○実施時期：平成20年11月～12月

○配布・回収票数：

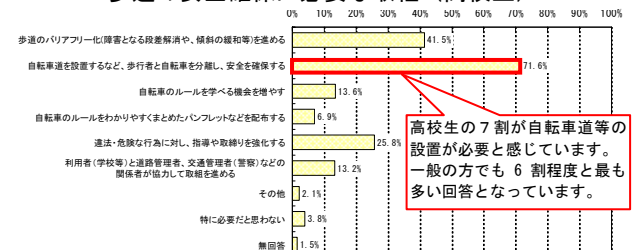
配布団体	配布方法	配布数	回収数
市立熊谷東小学校	学校を通じて配布・回収	420	405
市立富士見中学校	学校を通じて配布・回収	850	803
県立熊谷高校	学校を通じて配布・回収	1,000	1,851
県立熊谷女子高校	学校を通じて配布・回収	1,100	
筑波自治会連合会	自治会を通じて配布・回収	600	214
熊谷市なおね商店会	商店会を通じて配布・回収	45	28
熊谷市身体障害者福祉会	団体を通じて配布・回収	40	31
自立生活センター遊Oピア	団体を通じて配布・回収	30	23
熊谷市ろう者協会	団体を通じて配布・回収	20	20
熊谷市視覚障害者福祉会	聞き取り調査	5	5
熊谷理髪技術高等学校	学校を通じて配布・回収	13	13(一般)
えびす祭	聞き取り調査	37	37
合 計		4,160	3,430

○主な回答結果

歩道で「危険、怖い」と感じる時(一般の方)



歩道の安全確保に必要な取組(高校生)



■ワークショップ

○実施日：平成20年11月29日(土)9:30～15:30

○参加者：76名(障害団体等、小学生、中学生、高校生他)

○実施内容

午前【まちあるき】	① まちあるき(国道17号及び周辺県道、市道) ② 歩道の整備イメージの共有(コミュニティ広場前) ③ 障害(車いすや視覚障害)の疑似体験
午後【屋内での意見交換】	① 安全な自転車利用ルールの講義、先進事例の紹介 ② 歩道の整備に関する意見交換 ③ ワークショップに参加した感想発表

○主な意見

- ・ 利用者のルールが徹底されるのであれば非分離の方がよい(使い方に応用が効く)。
 - ・ ルールを守らない人ができるため、基本的には分離で考えるべき。
 - ・ 耳の聞こえない者の立場では、分離することで安全性が高まる。
 - ・ 目の見えない者の立場では、自転車と歩行者が分離された方がよい。
- 等多くのご意見を頂きました。



班ごとの意見交換



班ごとに内容を発表



まちあるきの様子

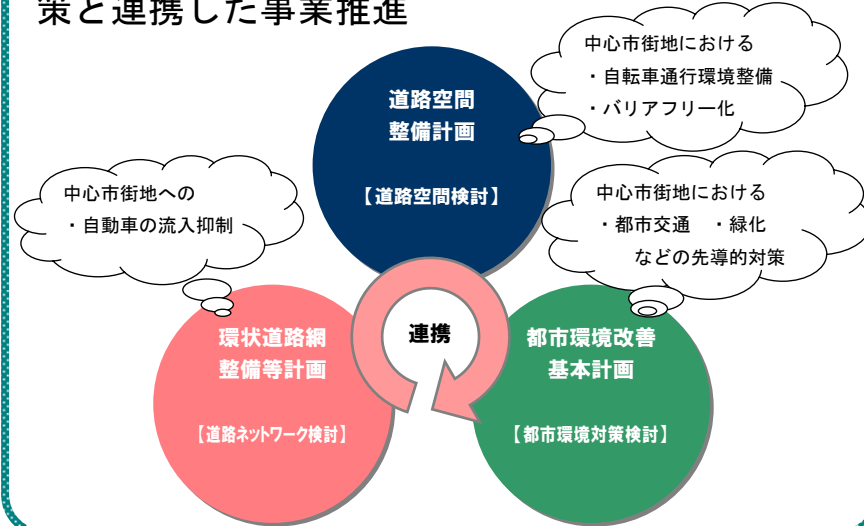


自転車や車いすの疑似体験



今後の課題

熊谷市における中心市街地活性化や都市交通政策と連携した事業推進



国道 17 号における車線削減に向けた検討



社会実験等による効果検証

歩道橋撤去の具体的検討



筑波歩道橋等における検討

交通ルールの徹底的な普及・啓発活動

さらなるネットワークの拡大（都市レベルに拡大）

沿道商店との合意形成

バリアフリー整備と自転車道等整備に関する事後評価

多様な関係者参加による継続的な検討

熊谷市道路空間検討会
及び ワークショップ

多様な主体の参加による
検討組織の立ち上げ
「（仮称）熊谷市道路空間
整備推進委員会」

各主体の取組への展開

熊谷市道路空間
整備方針(案)

平成 20 年度

整備に向けた具体的な検討
社会実験の実施

平成 21 年度

具体的な取組

平成 22 年度～



整備の方向性

歩行者と自転車の通行が区分された安全な道路空間の創出

基本的に歩行者と自転車は構造的に分離を行います。

ユニバーサルデザインの理念に基づく歩行空間整備

国道・県道・市道が統一の理念を持って、「はじめからバリアをつくらず、だれにとっても使いやすい整備」を目指します。



植樹帯による分離
（新潟県新潟市）



自転車専用通行帯による分離
（東京都渋谷区）



進行方向にまっすぐ設置された
UDブロック



縁に黒の帯を入れてコントラストを
高める工夫

中山道の歴史や祭事利用並びに周辺景観に配慮した整備

熊谷市の中心市街地としての景観形成に配慮し、落ち着いた景観のある、周囲との調和が図られた道路空間を形成します。



上空の道路付属物の高さに
配慮



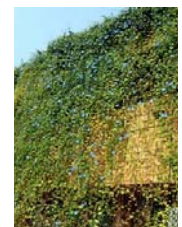
自然なしつらえの舗装
（島根県 津和野町）

緑空間の形成及び環境への配慮

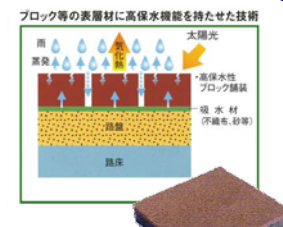
道路の再整備の機会を活用し、市の施策と連携して緑化等を進め、熊谷市の個性としてエコロジーを意識した空間を形成します。



歩道の日陰づくり
（東京都新宿区）



壁面緑化
（熊谷市内）



保水性舗装

自転車利用マナーやルールの周知

整備の機会に合わせ、警察や学校、地元と連携した自転車利用ルール等の周知、交通安全の啓発等を重点的・継続的に行い、地域ルールとしての定着を図ります。



学校での啓発活動（埼玉県内）



地域との連携及び景観や環境の保全・形成

「エコ」のまちづくりに関する市民意識の醸成を図り、打ち水や道路の維持管理をはじめ、国・県・市と市民・商店街・児童・学生等が連携した活動を展開します。



星川通りでの打ち水



花いっぱい・打ち水
子どもの見守り大作戦

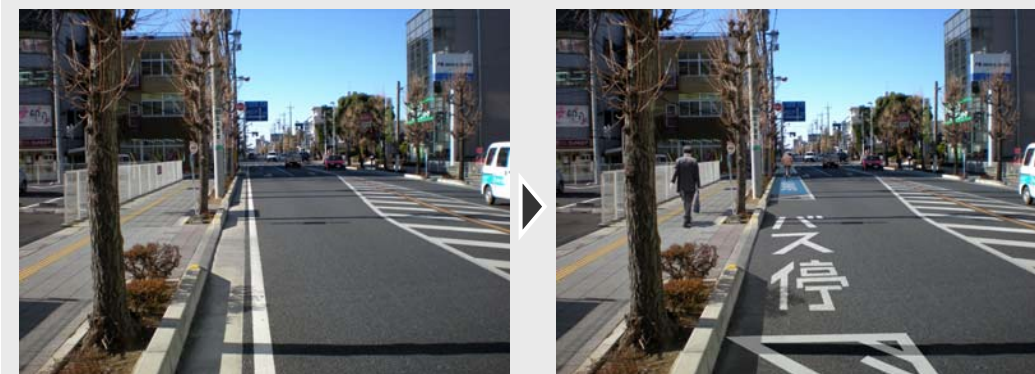


整備イメージ

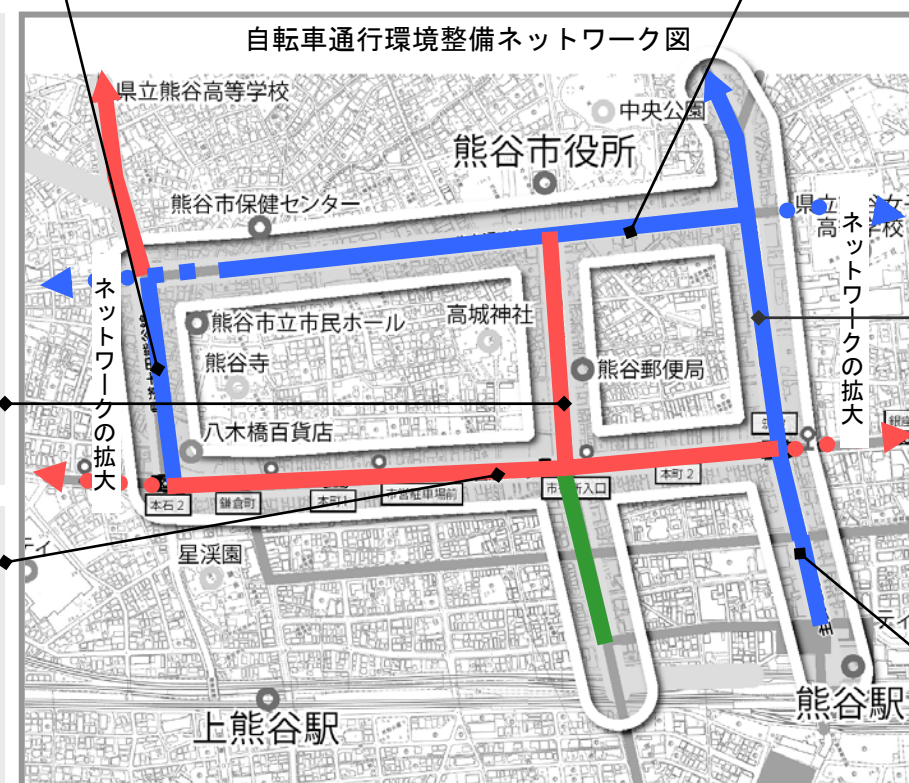
県道太田熊谷線



北大通り線



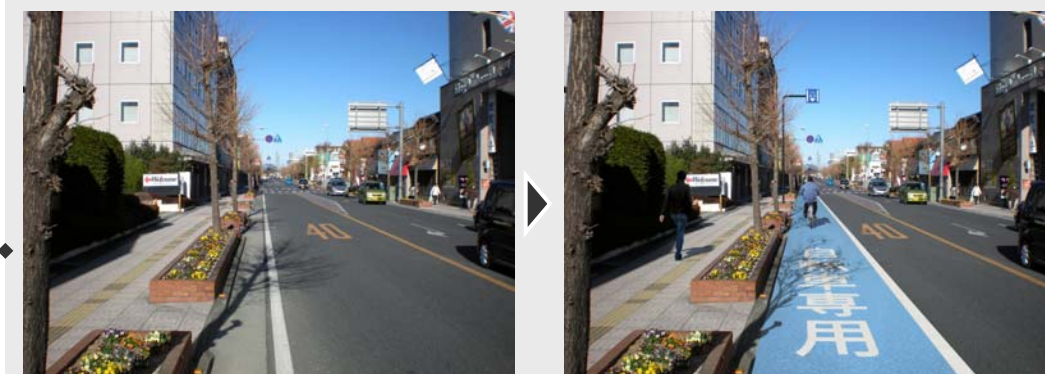
市役所通り



凡 例

- 自転車道を整備
- 自転車レーンを整備
- 自転車歩行者道として運用

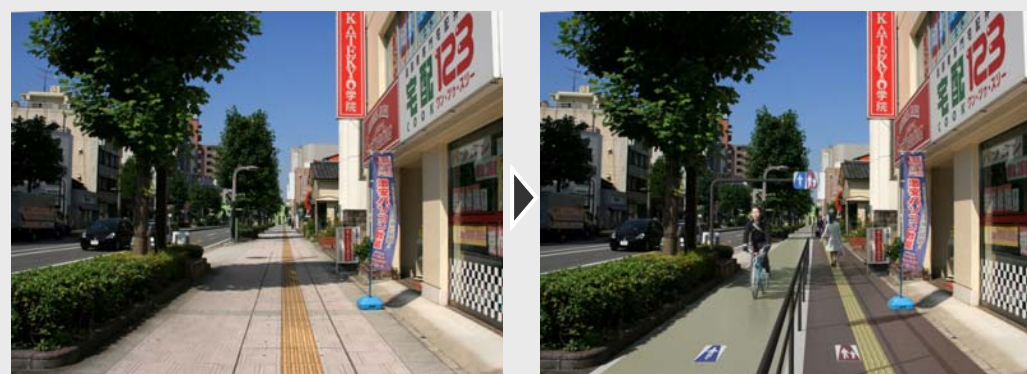
主要地方道 熊谷館林線



主要地方道 熊谷停車場線



国道 17 号



(もしくは)



(もしくは)

